

流れの
先に

港での生活に欠かせない給水

(大阪港にて)

第2回

日本屈指の貿易港である、大阪港で、船上や島での生活を支える「給水」が日々行われていることについて、前回に引き続き紹介させていただきます。

2 船からの給水

(1) 運搬給水（船で水を運び給水する）

クルーズ船はもとより、国内を運航するフェリーをはじめ、水（清水）を必要とする全ての船や島などに、直接又は運搬により給水が行われていますが、大阪港に直接接岸できない船や、埋立造成を行っている島などには、船で水を運んで給水（運搬給水と言います）を行うことになります。

その船での給水に携わっておられるのが、大阪市港湾局のみなさまです。大阪港第二突堤から大阪市港湾局の給水船（真清水丸（ましみずまる）:151t）に特別に乗せていただき、運搬給水を行う様子を見学させていただきました。



今回取材させていただいた真清水丸

給水船には、事前に水が積み込まれており、その水を運びながら、1時間弱で、目的地である大阪港沖に埋め立て造成工事中の「新島」へ到着しました。

幸いにもその日の波は静かで、船酔いすることはあ

りませんでした。風が強い日や前日に風が強かった日などは波が高く、慣れている職員のみなさまでも船酔いすることがあり、そのような状況であっても、必要としている船や島に給水に出かけられるとのことで、改めて大変なお仕事であることを認識しました。

さて、新島に到着後、大阪市港湾局職員のみなさまが、船上の水栓と、新島の事務所横にある20トンの水を貯留できる水槽とをホースでつなぎ、給水を開始されました。



真清水丸からの給水作業

新島へは、そこで働く人々が毎日、船で通勤され、島に滞在中の飲料、洗面等で使用する水を水槽に貯留しておき、使用されています。

通常、給水船による1回の給水で、約1週間分の水を貯留するとのことで、その間、水の量の確認等は欠かさず行われているとのことです。

新島には、海水淡水化装置もあり、雨水をためておいてそれを利用するなどの工夫もされていますが、「水は貴重です」とのお話をいただきました。

新島は、現在造成中で、土砂を積んだダンプカーがひっきりなしに行き来していることも手伝い、沖からの風が強い時は、砂埃がすごい状況になることもあるそうで、散水車による散水により、それを抑えることができるとのことでした。

その日は、給水船から、散水車に直接給水を4回行いました。1回が5トンとのことですので、計20トンを経由して給水船から給水した計算になります。水槽と散水車への給水で、あわせて計65トンの給水が行われました。



散水車への給水

乗船した給水船は、300トンの水を運搬、給水する能力を持っているとのことでした。

今回、大阪港で、水を必要としている船や島に、給水船はなくてはならない存在であることを身をもって感じました。

また、万一、災害が起こった際にも、状況次第ではありますが、水を必要としている船や島へ海から水を運び、給水を行う給水船は、大活躍するものと思います。

実際に、阪神淡路大震災が発生したとき、給水船は西宮市の鳴尾浜へ向かい、給水活動を行ったとのことでした。

陸路が寸断されるなどした際に、接岸できる港があれば、給水車数十台分の給水船が給水活動を行うことで、たくさんの人々に飲料水などが行き渡るため、大変効果があります。

「水の自動販売機」(※8月号をご覧ください。)には「清水」自動販売機と表示されているところですが、あらためて、その給水船の名前が、『真』『清水』丸(ましみずまる)であることに気づき、その命名の思いを感じることができました。

(2) 豆知識

「給水船の電光掲示板」

給水船の上部に設置してある大きな電光掲示板は、何に使用されるかご存じですか？

最初は、船のナンバーを表示するものかと思いましたが、そうではありませんでした。

給水前は「000」、給水後は「065」と表示

されていましたが、その答えは、給水船からの給水総量が表示されていたのでした。

この表示により、皆が給水量を確認できるようになっていました。



「給水前」

「給水後」

(3) 大阪港

大阪港では、年間約3万トンの給水が行われており、直接給水と運搬給水がそれぞれ約半分の割合になっているとのことでした。

大阪市港湾局は、もちろん給水業務だけでなく、インフラ整備、24時間体制の防災、船舶の安全航行に係る様々な取り組み等々、大阪港に係るハード面からソフト面まで幅広い業務に携わっておられます。

大阪港は、現在では、年間約8700万トンの貨物を扱い、世界約130の国と地域を結んで、人口約2100万人の近畿圏の経済活動や市民生活を支える、わが国有数の国際平和貿易港となっています。

大阪港が支える近畿圏のGDPは国内の約17%を占め、全世界の1%を超えています。(※「Port of Osaka 2014/2015」大阪市港湾局編集・発行より)

私共水資源機構は、その大阪港で使われている水を今後もしっかりお届けできるよう、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という経営理念のもと、業務に邁進して参ります。

編集後記

今回の取材に当たり、大阪市港湾局のみなさまには、大変お忙しい中、取材のための許可・準備・立会等々大変お世話になりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。誠にありがとうございました。



大阪市港湾局のみなさま